

# 二年学年だより

No. 4

7月号

令和5年7月1日発行

203HR

## 幼少期の体験が今の自分を作る～面白いという感覚を大事に～

6月8日(木)の全校集会で、本校のスクールライフアドバイザー岡本綾先生の「自分の人生の方向を決定付けたのは、幼少期の体験だった。」というお話を聞き、私も自分の人生を思い返すと、思い当たることがたくさんあった。私が小学4年生の時、算数の授業で『2つの形の異なる三角定規を使って平行な直線をひくにはどうすればいいか』という授業があった。正解は『2つの三角定規をくっつけて、一方を上下にずらす』だが、私は考えに考えて、1mの定規の上に1つの三角定規を置いてずらせば平行な線がひけるという考えを発表した。そこで授業の終了時間が来てしまったのだが、先生は1m定規を使ってはいけぬや、ただ正解を発表して終わるのではなく、次の授業でその続きをしてくださった。そしてついに、自分で正解にたどりつくことができた。この経験のおかげで、なぜだろうと考えることや、自分の意見を誰かに伝えることが面白いと思うようになった。その後も、「人間って何なのか」「時間は止まるのか」「地面を掘るとどこまで行けるのか」「夜、車に乗っていると月が追いかけてくるのはなぜか」と、様々な疑問が浮かんで消えてを繰り返していた。そして高校の授業で、実は自然界には様々な法則が存在し、その法則に従って自然界が動いていることを知った。衝撃だった。これは面白いと感じた。それと同時に、また別の疑問が出てきて、自分の持っている知識では説明ができないので、本を読んだり、インターネットを使って、自分なりの説を考えた。すると、段々と教科の垣根を超えてつながっていく。これがまた面白い。実は、今もこれを繰り返している。思い浮かぶ全ての疑問について考える時間はないけれど、知りたいと思うことがたくさんある。そして、今はこういうきっかけを1つでも多く生徒に経験させられる教員になりたいと思っている。先日、1年生の授業である生徒が「化学面白いんですよ！」と目を輝かせて伝えてくれた。そんな中央生を増やしたいと思う。教員って面白いですよ！ (203HR担任)

## なぜ君はここにいる？～面白いという感覚を忘れずに～

「キャプテン翼」ど真ん中世代の私は、サッカーが大好きだった。中学校では多くの同級生たち同様、当たり前のようにサッカー部に入部した。でも現実には地獄だった。「認められない水分補給」「恐怖すら覚える厳しい指導(「指導」と言っておきます)」「終わりの見えないランニング」多くの同級生が退部していく中、私も「いつ辞めようか」と考えるようになっていた。ある日の練習中「もう辞める」と呟いた私に、いつも一緒にいる友人が「嫌なことは多いけど、今やっているこの練習は面白いよ」と笑って答えた。そのときの雷に打たれたような感覚を今でも鮮明に覚えている。部活動のすべてが嫌過ぎて、「サッカーは面白い」という原点さえも忘れてしまっていた。冷静に振り返ると、嫌だったのはほとんどサッカーに関係のない要素だった。「どうせやるなら楽しんでやろう」そう切り替えた私は、高校でも大学でも、社会人になってもサッカーを楽しみながら続けることができた。酷暑の夏、凍える冬、ハードなメニュー、地道な反復、思いどおりにならない試合……、そんな瞬間には思い出してほしい。「なぜ自分はここにいるのか」きっと「面白い」という感覚があったからではないだろうか。勉強だって同じ。確かに、高校に行くのが当たり前の世の中だから進学したという人も多いだろう。でも、「解けなかった問題が解けるようになった」「世界の見え方が変わった」という感覚があったはず。幼い頃から繰り返された原風景を思い出してほしい。「テレレッテッテレー♪」(分かる?) 成長するって実は面白い。人生が「Easy Mode」だったら退屈だと思うよ。

余談になるが、教師という職業は、人が成長する瞬間に立ち会えることがある。本気になって目を輝かせる瞬間を目の当たりにできることがある。教師って面白いよ！ (203HR副担任)